

第I部

銚子市の城郭と居館跡



所在地・銚子市中島町2丁目223
銚子市指定史跡

① 海上氏宗家の本城

海上城は中島城のことである。江戸時代は海上城の名称で統一され中島城の名称は明治時代以降からのものである。

東総地区最大級の城郭で、下総台地の東端・利根川流域に面した突端部に位置している。

台地上から裾部まで、丘全体が遺構で東西に約500m、南北に約400mの広大な台地で、現在は畑地と山林、雑地になっている。

城の形態、地形は標高36mから43m、北側は内堀の逆川さかさがわが廻り、利根川まで田園が続き、東北側は海上川（高田川）流域で外堀の役割をして、おぼれたに溺谷が廻っている。西側もまた、支谷、溺谷が入り込み、空堀が廻り、天然の要害となっている。

概観するに城の大手筋にあたる三門みかど（御門）から周囲を見ると、大手門、中門中城、土塁、腰曲輪、帯曲輪、物見台、中城、郭と複雑な地形といくつかの郭がある。大手門付近と西木戸付近を除くと、全て60度前後の急傾斜地となっている。城郭は一部破壊されている部分があるが、大方往時の遺構を

残している。

特徴的なものは、何段もの三角土塁、幾重にも屈折した空堀、また丘城には珍しい水堀がある。この水堀は、他の城郭には見られず、海上城唯一のものである。水堀は東北側で粘土質の地層を利用して構築されたものである。

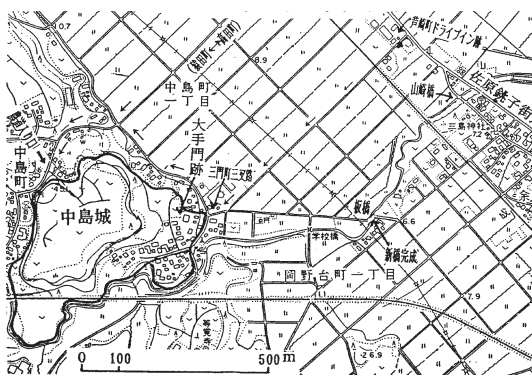
城主は諸説あるが、信憑性の高いものは資料集から千葉氏6党の一つ東胤頼（東氏）の孫、胤方が海上氏を中興し長子の胤景の子孫、胤泰、師胤、公胤、憲胤、頼胤と続く主流派正統が継ぎ、系図等によると、築城は海上惣（総）領第7代頼胤の前後、戦国時代の初期頃と推察される。

② 戦国時代の築城

これまでの文献や資料によると、おおかた築城時期は鎌倉時代の建久年間（1190～1199）説を



海上城の遠望



中島城地形図